

Literature cited

- Böcher, T.W. & L. Larsen, 1955. Bot. Tidsskr. 52: 125-131. Hara, H. 1948a. Proceed. Biogeograph. Soc. Jap. 1: 34. —, 1948b. Journ. Jap. Bot. 22: 165-172. —, 1954. Enum. Sperm. Jap. III: 1-7. —, 1955. Journ. Jap. Bot. 30: 20-26. —, 1966. Fl. East. Himal. 637-638. Hara, H. & H. Kanai, 1959. Distr. Map Fl. Pl. Jap. 2: map 165. Hiyama, Y. 1963. Journ. Jap. Bot. 38: 60-61. Iwate Syokubutsu no Kai ed. 1970. Flora of Iwate. 703 p. Rohweder, H. 1937. Planta 27: 501. Sakai, K. 1935. Jap. Journ. Genet. 11: 68. Sorsa, V. 1962. Ann. Acad. Sci. Fenn. Ser. A. IV Biol. 58: 1-14. Suzuka, O. 1950. Rep. Kihara Inst. Biol. Res. 4: 57. Warburg, E.F. 1938. New Phytol. 37: 130. Willis, J.C. 1966. A dictionary of the flowering plants and ferns. Ed. VII. Cambridge, The Univ. Press. 1214 p.

○ムラサキカタバミにおける傾光性 (柳沢新一) Shin-ichi YANAGISAWA: Phototropism in *Oxalis martiana*.

ムラサキカタバミは南米からの帰化植物で、草丈 10-20 cm 内外、花は赤紫色で 6-8 月に咲く。カタバミと同様に葉の運動があり、夜にたたまり、昼に平開するが、さらに光に対して花が運動することはカタバミと異っており、傾光植物として興味ある特徴をもつ。即ち、雨天、曇天には開かないが、快晴、晴天、薄曇りに良く開く。午前 9 時頃に半開となり 10 時には開花する。そして午後 3 時頃に再び半開にもどり、4 時には閉じてしまう。開花に至るまでの特徴として、午前 5 時には地面に向かって下垂していた蕾が、次第にもちあがり、9 時には水平となって花も半開となり、10 時から 12 時までには上向となって開花している。そして午後 3 時頃には再び下向となり、4 時から 5 時には下垂して花も閉じるのである。(東京都豊島区駒込町 6-12-14)

○オウシュウトボシガラ北海道に帰化 (伊藤 至) Itaru ITO: *Festuca gigantea* Vill. found in Hokkaido as an escape.

1968 年 8 月、札幌市の北海道大学農学部附属植物園を見学したとき、入って間もなく、ハルニレの原生林の下を流れる小川の辺りに点々と見なれぬイネ科植物が生えていた。特に培養した様子もなく、一雑草と見た。許可を得てこれを採集し、後日大井次三郎先生に見て頂いたら *Festuca gigantea* Vill. と同定された。これは同園が外国種を移入する際、これと一緒にまぎれて入ったものかとも思われる。新しい帰化植物として報告したい。和名については大井先生はオウシュウトボシガラと呼びたいとのことである。トボシガラより全体一まわり大きい。(千葉県立東葛飾高等学校)